



テナントリージョン管理

・テナントリージョン管理 (1 ページ)

テナントリージョン管理

異なるリージョンでのテナントポリシーの展開

Cisco Cloud APIC 所有権チェックを適用して、意図的にまたは誤って行われた同じテナントとリージョンの組み合わせでポリシーが展開されないようにします。たとえば、1つ (CAPIC1) がリージョン R1 の AWS アカウント IA1 に展開されており、テナントをリージョン R2 のアカウント TA1 に展開するとします。Cisco Cloud APIC このテナント展開 (TA1-R2 のアカウントとリージョンの組み合わせ) は、IA1-R1 (CAPIC1) によって所有されています。別の (CAPIC2) が将来のある時点で TA1-R2 の同じテナントとリージョンの組み合わせを管理しようとした場合 (たとえば、CAPIC2 がリージョン R3 の AWS アカウント IA2 に導入されている場合)、展開 TA1-R2 の所有者は IA1-R1 (CAPIC1) です。Cisco Cloud APIC

これらの制限は、AWS リソース グループを使用して実現されます。次の例は、有効な展開と無効な展開の組み合わせを示しています。

Cisco Cloud APIC	テナント	有効性	理由
IA1-R1(CAPIC1)	TA1-R1	有効	テナント TA1-R1 は IA1-R1 (CAPIC1) によって所有されています。
IA1-R1(CAPIC1)	TA1-R2	有効	テナント TA1-R2 は IA1-R1 (CAPIC1) によって所有されています。

Cisco Cloud APIC	テナント	有効性	理由
IA1-R2(CAPIC2)	TA1-R1	無効	テナント TA1-R1 はすでに IA1-R1 (CAPIC1) によって所有されています。
IA1-R2(CAPIC2)	TA1-R3	有効	テナント TA1-R3 は IA1-R2 (CAPIC2) によって所有されています。
IA2-R1(CAPIC3)	TA1-R1	無効	テナント TA1-R1 はすでに IA1-R1 (CAPIC1) によって所有されています。
IA2-R1(CAPIC3)	TA1-R4	有効	テナント TA1-R4 は IA2-R1 (CAPIC3) によって所有されています。
IA2-R1(CAPIC3)	TA2-R4	有効	テナント TA2-R4 は IA2-R1 (CAPIC3) によって所有されています。

展開の適用は、インフラテナントとユーザテナントに対して実行されます。CAPIC1 がリージョン R1 のアカウント IA1 に導入されており、リージョン R2 と R3 を管理しようとしている場合、リージョン R1、R2、および R3 の同じアカウント IA1 を管理しようとする別のアカウント（たとえば、CAPIC2）は許可されません。Cisco Cloud APIC

テナントリージョンの所有権の検証は、AWS リソースグループを使用して行われます。テナントとリージョンの組み合わせごとに、構文 `CloudAPIC_TenantName_Region` を使用してリソースグループが作成されます（たとえば、リージョン R2 のアカウント TA1 に `CAPIC_TA1_R2` という名前が展開されている場合）。また、Cisco Cloud APIC がリージョン R1 のアカウント IA1 に導入されている場合は、`IA1_R1_TA1_R2` の所有権タグがあります。

次に、`AciOwnerTag` の不一致が発生し、既存のテナントリージョンの導入が失敗する状況の例を示します。

- Cisco Cloud APIC が最初に 1 つのアカウントにインストールされた場合、破棄され、Cisco Cloud APIC は別のアカウントにインストールされました。この場合、同じテナントとリージョンの組み合わせを再度管理しようとする、既存のすべてのテナントとリージョンの展開が失敗します。
- Cisco Cloud APIC が 1 つの地域に最初にインストールされた場合、その後切断され、Cisco Cloud APIC は別の地域にインストールされます。この場合、既存のすべてのテナントリージョンの展開が失敗します。

- 別のテナントが同じテナントリージョンを管理している場合。Cisco Cloud APIC

所有権が一致しない場合、Cisco Cloud APIC はテナント領域のセットアップの再試行を再度実行しません。所有権の不一致のケースを解決するには、他のテナントが同じテナントとリージョンの組み合わせを管理していない場合は、テナントの AWS アカウントにログインし、影響を受けるリソースグループ（CAPIC_123456789012_us-east-2など）を手動で削除します。Cisco Cloud APIC次に、Cisco Cloud APIC インスタンスをリロードするか、Cisco Cloud APIC からテナントを削除して再度追加します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。